

教職課程科目「教育制度・経営論」のルーブリックを活用した反転授業運営の一例

- 1 反転授業の流れを第5回目「生涯学習社会と現代の学校-制度をめぐる諸課題と社会教育-」を用いて以下で説明します。

* 第5回目の授業に相当するルーブリック項目

- 【5回目】①小学校・中学校・高等学校の部活動と大学の部活動・サークル活動との違いを想起しておく。
- 【5回目】②ボランティア活動と英会話スクール等のイメージを想起してきてください。
- 【5回目】③生涯学習が必要となる社会背景を説明できる。
- 【5回目】④社会教育と自己実現の意味をそれぞれ説明できる。

* 反転授業運営の流れ

- (a) 第4回の授業の終わりにルーブリック①、②に相当する事前課題としてレポート提出を設定しておく。
- (b) 第5回の授業の初めに1の提出されている学生のレポート課題の紹介を8~10例ほど全体に行う。
- (c) 授業テーマに基づく講義とディスカッションとルーブリック③に相当するレポート課題(1)を授業中に行う。
- (d) 課題(1)の学生の発表を元に、学生の理解度を把握し、あらかじめ設定してあるレポート課題(2)に対してキーワードや中心となる概念などを都度、調整して学生に伝える。
- (e) 授業中にレポート課題(2)について、思考する時間、質問や学生に進捗を全体に発表させることで、受講生全体の課題把握の理解度をあげることで課題解決の切り口を広げる。

2 反転授業における効果

- (a) レポート課題(1)と(2)については、それぞれシラバスの到達目標「①教育制度の理論を説明できる。」「②現代日本の教育制度について説明できる。」に相当することを学生が課題に取り組む前にあらかじめ伝えておくことで、到達目標の意識化を図る。
- (b) 事前課題(評価割合 2%)×14回+授業中課題(評価割合 3%)×14回=70%に本授業全体の設定をしていることを当初ガイダンスや授業内でも折に触れ学生に伝えておき、学生のモチベーションの維持向上を図る。